

第7回
郷土伝統芸能回
こどい

入場無料

日時 3/19 日

開演 12:30 (開場 12:00)

会場 小諸市文化会館



【出演種目】

大浅間火煙太鼓 / 紅浅間緞帳セレモニー
二十五菩薩来迎会 / 健速奉納舞踊
正調小室節 / 小諸馬子唄 / 惜別の歌 / なれそ節
小諸小唄 / 菱野小唄 / 千曲川旅情のうた / 小諸音頭

【展示種目】

御影道祖神祭 (模型・写真ほか)
小諸八幡宮八朔相撲 (化粧回し・のぼり旗ほか)

主催 小諸市・小諸市文化協会
小諸市文化会館自主事業実行委員会

園小諸市文化会館 ☎ 0267-23-8880

◆内容

p.16~17 第58回小諸市児童生徒新年書初め展
p.18 ぼくとわたしの作品 (東小学校)
p.19 えんぴつリレー (六供区 富岡淳)

p.20 みんなの宝物 (高濱虚子記念館 / 古文書調査室)
p.21 五行歌 (こもろ五行歌の会)
全国公民館報コンクール『金賞』受賞



カラー版はこちら

私にとって、3月は憂鬱です。あまり良い思い出がありません。進学・進級・就職・決算・転勤と、なにかと結果を求められます。頑張ったふうなことを言い、そこそこの満足感を漂わせながら、前向きな主張をし、波風を立てないように、やり過ごします。

「♪梅は咲いたか♪♪桜はまだかいな♪」なんて、浮かれて悠長な気持ちにはなれません。「咲く」ことを突きつけられているようで、痛いです。20代のころに教えを受けた師がいつも言っていた「野の花は誰も見ていなくとも咲いている。だから、ただ咲きなさい」に救われました。

日陰に咲く花もあります、アスファルトの隙間から伸びる草もあります、誰も訪れない山奥で人知れず咲く花もあります。きれいに咲くだけが咲き方ではありません。いびつに咲く花もある、蕾のまま踏みつぶされてしまうこともある。「ただ咲きなさい」

季節変わり、年度替わりの3月。この言葉を思い出します。

編集委員 岡村 博文



第58回児童生徒新年書初め展

新年への希望や決意を表現することにより、健全な精神の育成と、小諸の書芸文化の発展を目的に、本年も児童生徒新年書初め展を開催しました。開催日の2月3日(金)～5日(日)の3日間は感染防止対策を行い大勢の皆様にご鑑賞していただきました。今年は497点の応募があり、その作品の中から市長賞を始めとする特別賞に10点、特選に24点が選ばれました。

― 特別賞 ―

※作品寸評 審査委員長 成沢臨舟先生

小諸市長賞

不言実行
一年 市川 美邑

小諸市議会議長賞

澄心静慮
三年 山浦 結愛

小諸市教育長賞

新たな目標
二年 青木 彩和

小諸市公民館長賞

強い信念
六年 大池 ひかり

小諸東中学校 一年 市川 美邑

落ち着いた筆遣い、伸びやかで見事な結体、名前と共に美しく、格調の高い作品である
※結体＝一字の組み立て方、構成(起筆、終筆、折れ等)

芦原中学校 三年 山浦 結愛

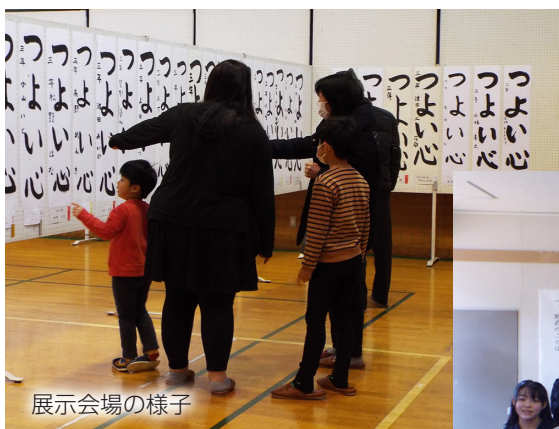
力みのない素朴な線で、行意を見せ、明るく、名前も良し、格の高い作品となった
※行意＝行書を書こうとする意志

小諸東中学校 二年 青木 彩和

温かな線と端正な字形に心と和む、初春の陽だまりの様な暖かみのある良い作品である

美南が丘小学校 六年 大池 ひかり

紙面一杯に、太く大きく、骨格も力強く安定感に満ち、名前が一段と作品を美しくしている



展示会場の様子



小諸市文化協会会長賞

強い信念
六年 柳沢 美羽

小諸市校長会長賞

生きる力
四年 金井 琉花

小諸書芸連盟会長賞

正月の朝
五年 小山 紗央

小諸市青少年育成会連合会長賞

正月の朝
五年 羽田 兼伸

小諸市社会福祉協議会長賞

生きる力
四年 小山 友里

小諸商工会議所会頭賞

つよい心
三年 大池 ひいろ

野岸小学校 六年 柳沢 美羽

筆遣いの巧みさ、行き届いた気配り、真面目な勉強
ぶりが伺える格調高い作品である

美南ガ丘小学校 四年 金井 琉花

一点一画正しい筆遣い、丁寧に書いている姿が見え
る、今後への期待が大である

東小学校 五年 小山 紗央

暖かみのある柔らかな線でバランスの取れた字形、
落ち着いてゆったりと丁寧に書けた

野岸小学校 五年 羽田 兼伸

伸びやかな線の中に、穏やかさと強さあり、書初め
にふさわしい、良い作品である

水明小学校 四年 小山 友里

紙面からは切れそうな元気で大胆で大きな運筆
は、書初めにふさわしい堂々の力作

美南ガ丘小学校 三年 大池 ひいろ

筆遣いが丁寧で純朴、伸びやかな暖かみのある線で、
安定感抜群の良い作品である

— 特 選 —

千曲小学校 三年 小野 柚希

坂の上小学校 三年 土屋 陽奏

東小学校 三年 細谷 まりか

野岸小学校 三年 柳沢 羽音

美南ガ丘小学校 四年 柏木 のどか

千曲小学校 四年 林田 麻玲瑛

坂の上小学校 四年 望月 郁弥

野岸小学校 四年 谷内田 悠翔

佐久平浅間小学校 五年 小井出 絢音

美南ガ丘小学校 五年 小山 椎衣

坂の上小学校 五年 福田 小晴

水明小学校 五年 柳澤 柚羽

野岸小学校 六年 尾芦 双芭

東小学校 六年 小林 優奈

水明小学校 六年 清水 碧桜

千曲小学校 六年 清水 秋那

千曲小学校 六年 山浦 虎雅

浅間中学校 一年 大塚 舜

佐久長聖高校付属中学校 一年 長谷川 美空

屋代高校付属中学校 一年 三木 夢

芦原中学校 二年 土屋 心音

浅間中学校 二年 茂木 結衣

野沢中学校 三年 石井 利空

小諸東中学校 三年 三石 結菜



東 小 学 校



「未来を明るく環境学習」

6年2組

いしおか りょう
石岡 涼

ぼくのクラス、6年2組では環境学習で地域のゴミ拾いをしています。今年の4月ごろにクラスで総合の学習でどんなことをやろうかを話し合った結果、地域のゴミ拾いをすることに決めました。今、世界は環境がおせんされていて、不快に思う時があります。あまりにもスケールが大きい日本中や世界中は無理なので地域のゴミ拾いをすることになりました。

初めてゴミ拾いに行った時、なぜ、ここに落ちているのか分からない物が落ちていたりして、そのことから色々なことを考えました。草がたくさんあって分かりづらい所にゴミが捨ててあったのは人目につかないからではないかなど色々考えました。そして、これからどうしたらゴミが減るのか考えました。学校周辺のゴミの量を記録し、ポスター等を使って呼びかけをするなどです。そして、今は学校周辺のゴミ拾いが終わり、これから呼びかけ等をしていく方法を考えています。これからもクラスみんなでがんばろうと思います。がんばるぞー！



「タブレットを使って」

6年3組

こばやし ゆうな
小林 優奈

6年3組は、5年生の時からタブレットの勉強をたくさんしてきました。楽しくタイピングの練習をしたり、タブレットのいろいろな機能を先生に教えてもらったりしました。これまでの勉強を生かして、今、総合の時間に東小サイトを作っています。

東小サイトには、おすすめのタイピングサイトや学習サイトをのせました。先生方に班ごとインタビューをして、おすすめのサイトを教えてもら

い、クラスで選びました。

その他にも自分たちでオリジナルの動画やスライドを作ったのせていきます。私は、歴史クイズとタブレットのルールクイズの2つのグループに入っています。2つともスライドで作っています。文字だけでなく、イラストものせて、楽しくできるように工夫しています。分からないことは、先生に聞いて教えてもらっています。まだ少ししか進んでいないけど、これから友だちと協力して完成させていきたいです。

6年3組で作った東小サイトをたくさんの人に見てもらえると嬉しいです。





「古文書は楽しい」

六供区 富岡 淳



古文書教室

古 文書調査室の中に平成26年に初級の「いろは塾」、翌年中級の「ほへと塾」が、斎藤洋一先生指導のもとに開講されました。令和2年に自主的勉強サークル「木曜会」も開かれています。指導の先生は、小須田基弘先生、市川包雄先生に変わっています。

私は平成30年に「いろは塾」に入り、現在は「ほへと塾」と「木曜会」で勉強しています。

水害・戊の満水（※資料Ⅰ）

町の塩川家文書です。寛保2年の災害についての藩への報告書です。流失家236軒、流死者397人、流死馬14頭、その他田畑の流失が詳細に書かれています。この様な大災害にもかかわらず寛保3年の正月には12人が伊勢参りに出かけております。その後、藩の林からの材木の切り出しの願いを出し復興工事が始まっています。

参勤交代

元 文3年、殿様御駕出達に本町の庄屋、問屋、年寄等約20人が町はずれまで見送りに出ています。また、元文4年の殿様

御帰国の時もお迎えに町はずれまで出掛けています。大名の参勤交代は勉強しましたが、参勤交代の度に町人が送迎に出ていることは知りませんでした。

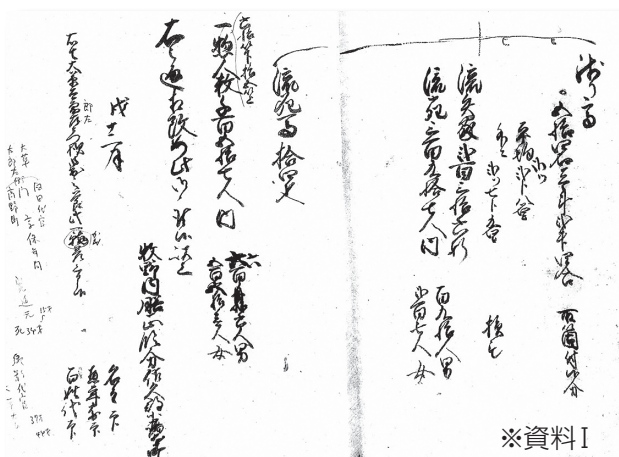
助け合い（※資料Ⅱ）

柏 木の小山家文書です。「いろは塾」で最初に勉強した文書です。明治2年遭作で米が取れなかったが、上様よりお救いの粃を頂戴し、村の身許の良い者が穀物を出し合い、2月には小山又四郎が50俵の粃を出し、一人の餓死者も出さなく過ごしたことの藩への報告書です。

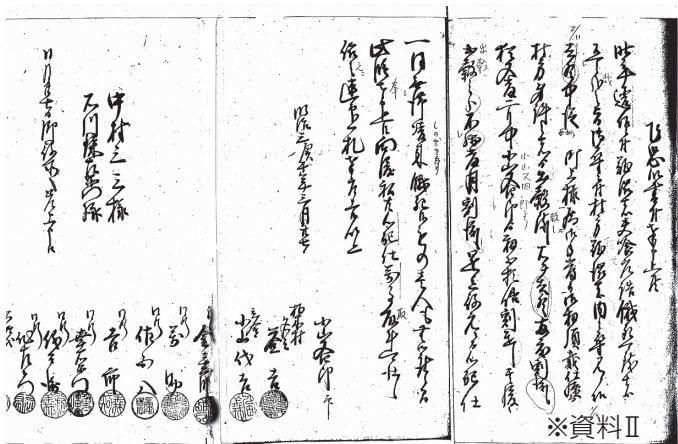
このように助け合って春を迎えられたことは、明治維新の混乱期に素晴らしいことです。

「一緒に学びませんか」
文書は読めない。難しいです。でも始めてみると面白く、楽しいです。私達が勉強している所を見に来てください。

広報こもろ3月号に募集要項が載っています。



※資料Ⅰ



※資料Ⅱ

公民館登録団体 小諸太極拳同好会

太極拳講習会

無料

① 3/19 (日) 10:00 ~ 12:00

小諸市市民交流センター 会議室3

② 3/31 (金) 19:00 ~ 20:45

小諸市文化センター 2階軽運動室

身体感覚を養い、内面を考えながら動くことが血行促進・健康増進につながります！太極拳の身体の使い方を学ぶことで膝痛・腰痛が改善します。運動が苦手な方や体力に自信がない方も気軽にご参加ください。

【持ち物】 底の薄い上履き、飲み物
敷物（ヨガマットなど）

【服装】 動きやすい服装

問大木 070-4814-5068



みんなの宝物

高濱虚子記念館

「郷土の俳人 白田亜浪」



小諸義塾は各界で活躍した多くの人材を輩出しましたが、俳壇で活躍したのが、高濱虚子にも師事した白田亜浪です。

本名白田卯一郎、別号に一兎、石楠、北山南水楼があります。明治12年2月1日、小諸市新町（旧小諸町新町）に生まれ、小諸義塾に学び、同29年に上京。苦学の末、同37年に和仏法律学校（現法政大学の前身）を卒業しました。卒業後は新聞記者となり、42年には「やまと新聞」の編集長となりました。

俳句は16歳ごろより一兎と号して句作を始め、明治20年頃正岡子規を知り、日本派の句風に親しみました。高濱虚子にも添削を受け、句作に一層励むよ

うになりました。

大正3年、大須賀乙字と石楠社を創立、翌年俳誌「石楠」を創刊しました。以後、自然の中にこそ真の俳句があると唱え、「句作の態度はまことにある」をスローガンに俳壇の多くの門人を指導しました。一時は「石楠」は高濱虚子の「ホトトギス」と肩を並べるほどに成長しました。

その後新たに名古屋新聞、新潟毎日新聞、信濃毎日新聞等の俳壇も担当しました。旅人亜浪と称され、自然を愛し訪れた多くの地で指導し、また俳句大会を開催しました。

昭和3年と10年には朝鮮や満州にも渡り、多くの句作に励み、同15年日本俳句作家協会設立役員となりました。昭和26年11月10日、3度目の脳溢血発作を起こし、72歳の生涯を終えました。

現在小諸市内には、「ふるさと」は山路がかりに秋の暮れ「郭公や薬師立たせる山の霧」等の代表句の句碑があります。

【開館時間】9:00～17:00

【休館日】水曜日（祝祭日にあたる場合は翌日）

※12～3月は冬期休館

図高濱虚子記念館 ☎0267-26-3010

※冬期休館中は小諸市役所文化財・生涯学習課

☎0267-22-1700

古文書調査室

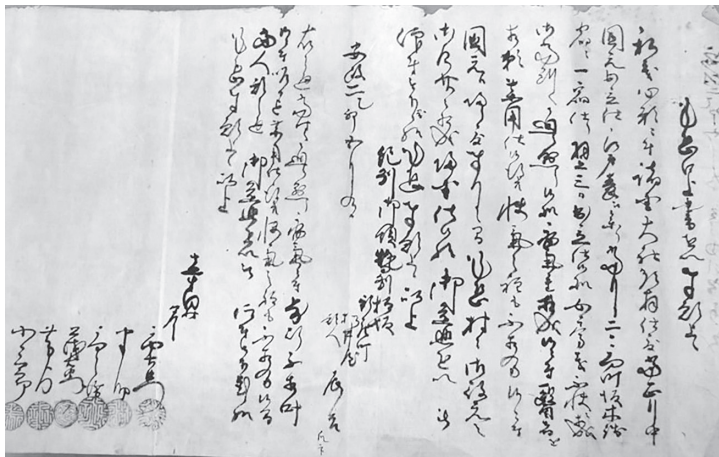
「乍恐」の願い書

（行倒れ人を助けたい・芝生田村文書）

江戸時代は庶民が寺社参りなどの旅に、比較的自由に出かけることができた時代になっていました。わくわくする旅の楽しさは昔も今も変わらないと思います。

しかし、歩くことが中心であった江戸時代には、旅の途中で病気になったり、死んでしまったりする危険は、今以上に大きかったと思います。

芝生田村文書の中には、そんな江戸



時代の旅人の苦しさや周りの人々の対応の様子などがわかるものがいくつか残されています。

安政2年（1855）5月に伊勢国松坂に住んでいる辰吉という人と芝生田村役人から小諸藩にあてた文書があります。（写真）

辰吉は諸国の大社を巡拝しようと正月に国元を出発して小諸の市町までやって来て一泊。そして出発しようとしたところ女房の具合が悪くなり、芝生田の辺りを通りかかったところに病気が重くなって、医者にもみてもらったが良くなりません。何とか自分たちは国元まで帰りたいので、その手配をお願いしたい、と嘆願。

それを受けて芝生田村役人はその旨を書き添え、藩に提出します。この結果はわかりませんが、おそらく藩の方で許可し、村の手配で辰吉の女房を駕籠に乗せるなどし、出身地の伊勢国まで送ったものと思います。

当時の幕府からのお触れでは、行倒れた旅人には宿を与えたり、医者にみせたり薬を与えたりして、村々では手厚く対応しなさい、となっていました。旅人が苦しまないよう、困ったら助けよう、そういった人々の温かい気持が感じられます。

このような昔の人々の動きを知ることのできる古文書を大切にしていきたいと思っています。

図古文書調査室

☎0267-22-10913

「こんにちは」文化センターです！

全国公民館報コンクール 2回連続

最高賞の **金賞** 受賞!!

全国公民館連合会の主催する「第9回全国公民館報コンクール」で前回到引き続き金賞を受賞しました。

「『公民館報こもろ』再び金賞を受賞」の報に、編集委員一同喜びを分かち合いました。

良い評価をいただけたのは、原稿を寄せてくださる市民の皆様のお陰です。受賞に恥じぬよう一同の知識と情熱を寄せ合って、より良い紙面作りに励んでまいります。

公民館報編集委員一同



各施設の予約開始日

施設名	利用月	予約開始日
公民館・こもろ女性の家（貸出備品含む）	令和5年5月	令和5年3月1日(木)
乙女湖体育館	令和5年9月	
文化会館	令和6年3月	

文化センターからのお知らせ

令和5年4月から、
公民館・こもろ女性の家・乙女湖体育館・文化会館の
予約開始日を統一します。

五行歌

こもろ五行歌の会

●源流は

甘利 滋子

一滴の雨
山野を駆け下る
小川が大河に
延々と日本海へ

井出 正子

●右目で見える像が
歪んでいる

田沼 邦夫

ピシッと張った
ギターが弦が
ぐにやぐにや

●コロナでなければ
手を握ってやりたかった
80歳になつての
息子さんの訃報
暑いね〜で終わつた

荻原 葉子

●車窓を開けて
「雨のにおいつて
わかる？」

大池 佳子

少女の言葉は
そのまま詩になる

●私マスク作つたよ
イレギュラーな
ひと針ひと針
なんとぶきつちよな
あの娘が

柏木ひろみ

●近所のお稲荷さんに
初詣

家族三世代9人
凍った道を
ガヤガヤ歩く